

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 4年 2月25日

学) 熊本王栄学園 王栄幼稚園

1. 本園の教育目標

心 育 (キリスト教保育を柱に、何事も感謝できる子ども)

学 ぶ 力 (様々なカリキュラムにより、年齢に応じた知力、能力、食力を持てる子ども)

環 境 (自然と社会は循環していることを認識し、実行できる子ども)

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評 価	取り組み状況
1	キリスト教保育理念と新教育課程を組み合わせ、見直し改善を図る	A	聖書と幼児の活動をよく学び、教職員が定期的に話し合い、ねらいや内容の見直しを行った。
2	特別支援教育のための、園内体制をもう一度見直す。	A	特別支援コーディネーターを中心に、発達段階に応じた援助や環境設定をもう一度見直した。
3	保護者のニーズ (今年はコロナ禍) の把握に努め、適切な対応を図る。	B	コロナ禍で多くの行事のスタイルをかえ、感染対策に時間を要した。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、去年よりも深く考え、一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育を実践する事ができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	安全管理	門を開けたまま保育を行っているので、教員の意識付け、また、施設面での対応を徹底していかなければならない。
2	環境	室内や園庭の環境について話し合い、遊びが発展していくような環境構成に取り組む。園庭を駐車場としても使用するので、安全を守るにはどうしたらいいのか見直す。
3	幼小接続	幼稚園と小学校の教師がともに学ぶ機会をもち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価

今後の安全管理は、特に取り組む課題である。 その他は、妥当であると認められる。